



国民の森林・国有林

広報

# 中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎(026)236-2531

http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/



長年の取り組みを未来につなぐ

## 遊々の森「多摩市民の森」の協定を締結

(P6に関連記事)

主 な 項 目	○平成17年度中部森林管理局業務予定を記者発表 …………… 2
	○「みどりの日」各地でイベント開催 …………… 4
	○各地のたより …………… 5

# 平成十七年度 中部森林管理局業務予定を記者発表 「地球温暖化防止」、「開かれた『国民の森林』の実現」に向けて

四月二十五日、平成十七年度中部森林管理局の業務予定の概要について、記者発表を行いました。

## 発表内容の要旨

中部森林管理局においては、国有林野の管理経営に関する基本計画及び地域管理経営計画に基づき、国有林野の公益的機能の維持増進を一層推進するため森林の整備、保全対策等を着実に推進することとしております。特に、地球温暖化防止対策における「地球温暖化防止森林吸収源一〇カ年対策」の第二ステップ（平成十七～十九年）を迎えたことから、間伐強化対策の積極的な推進、自然植生の保全・回復の推進、木材の利用促進など、森林吸収源対策を積極的に推進することとしております。

また、昨年度は、台風等による山地災害が発生していることを踏まえ、安全で安心して暮らせる国土づくりを図るための山地災害の防止対策を推進するなど、治山事業を計画的かつ着実に推進することとしております。

更に、近年の森林に対する国民の要請は、国土の保全や水源のかん養に加え、地球温暖化の防止、生物多様性の保全、森林環境教育の推進、森林とのふれあい

等、多様化、高度化しています。これら国民の要請に適切に対応していくため、「日本の屋根」といわれる日本アルプスを中心とした上流域から、中京圏を代表とする下流域までを一体的に管轄している管内の特性を最大限に生かし、「水の交流」、「木の交流」、「人の交流」の三つの交流をキーワードとした取り組みを推進し、名実ともに開かれた「国民の森林」の実現に向け、国民各層の理解と協力を得ながら適切な管理経営を推進することとしております。



記者発表の様子

## 地球温暖化防止に向けて

国有林の公益的機能の維持・増進を一層推進するため、第二ステップの三年間において集中的に間伐を実施するなど、国土の保全等公益的機能の発揮と地球温暖化防止に資する森林整備を着実に進めます。

### ①適切な森林整備と保全の推進

地球温暖化防止対策への国有林の率先した取組の必要性を踏まえ、積極的な間伐、自然植生の保全・回復及び治山事業の推進等により、二酸化炭素の吸収・貯蔵機能や生物多様性の保全機能等、森林の持つ多面的機能が一層発揮されるよう、多様で健全な森林整備・保全を推進します。

### ②安全で安心して暮らせる国土づくりの実現

管内には糸魚川・静岡構造線、中央構造線、阿寺断層、根尾断層など日本有数の断層が存することから、地質構造が脆弱で、豪雨、地震などにより山地災害が多発しています。これによる被害を最小限にとどめ、地域の安全性の向上に資するため、荒廃地の土砂の浸食、流出を抑えるとともに、森林を造成し、森林の有する水源かん養機能等の発揮によって水を治める治山事業を着実に進めます。

### ③間伐等の森林整備を通じて生産される木材の利用促進

間伐によって生産された材については、市場動向や消費者ニーズ等を的確に把握し、これに対応した採材や販売計画を策定し、需要動向に応じた計画的・安定的な販売に努めます。

また、公共建築物等に間伐材を積極的に使用していただくため、他省庁、地方

公共団体等への働きかけや、長野県木曾郡上松町に設定している「赤沢木材利用等展示エリア」を活用した説明会等を通じて、間伐材の利用拡大に取り組みます。

### ④治山・林道工事等における間伐材の積極的な使用

治山・林道事業の森林土木工事には、木材の特質に考慮しつつ、間伐材丸太等を用いた工法（法面保護工等）を採用するなど、間伐材の積極的な利用を推進します。



法面保護工の木材利用

### ⑤木質バイオマスの利用促進

森林に由来するバイオマス資源は、再生可能でクリーンなエネルギーとして注目されていることから、南信森林管理局管内においてカラマツ等の小径木を昨年度に引き続きパレット工場に供給する予定であり、木質バイオマスの利用促進の取り組みに対し支援します。

開かれた「国民の森林」の実現に向けて三つの交流をキーワードとした取り組みを推進

「水の交流」

国民生活に不可欠な良質な水を供給するため、上下流域が一体となった森林整備・保全に取り組みます。

特に、台風や豪雨、地震により、良質な水・水量の確保に苦慮してきた中京圏と上流域の関係者、市町村が連携した上流一体の森林整備を進めます。



愛知県日進市による分収造林地の枝打作業（長野県木祖村）

①木曾川・森づくりin赤沢

森林浴発祥の地である「赤沢自然休養林」（長野県木曾郡上松町）において、下流域の名古屋市を中心とした都市住民、森林ボランティア団体等による間伐作業や森林散策等を通じて、交流を図る「木曾川・森づくりin赤沢」の開催を予定しています。

②民間団体の多様な活動の推進

近年、民間団体などにおいて森林の保全活動を行う場合、広範囲な区域を対象

とする事例が多く、国有林野内に活動の場を求める要望があることから、民間団体等と森林管理署等が協定を締結することにより、連携して森林整備等の多様な活動を推進します。

「木の交流」

文化財や地域を代表する建造物等に国有林から産出される木曾ヒノキ等が使用され、日本の文化財等の維持・保存に国有林が大きく貢献しています。

特に、日本を代表する銘木「木曾ヒノキ」は、古くは京都、奈良の著名な神社仏閣、各地の城をはじめとする地域の重要な建造物、文化財等のシンボルの建造物の新築・修理等に使用されていますが、資源の減少とともに年々貴重な材となってきました。



木曾ヒノキを使用し復元された大洲城（愛媛県大洲市）

①文化庁等との連携強化

文化庁、府県の文化財建造物等の修繕担当部局、(財)文化財建造物保存技術協会等と連携し、需要拡大を図ります。

②市場等関係者との連携強化

我が国屈指の木材の集散地である中京地区の原木市場、木曾ヒノキ等の木材生産地である木曾地区の原木市場・木材関係団体との情報・意見交換会を実施し、需要拡大を図ります。

③各森林管理局との連携強化

管内に著名な神社仏閣等が多数存在する近畿中国森林管理局や四国森林管理局と連携し、木曾ヒノキや高齢級ヒノキ人工林材等銘木の情報を共有することにより、広域的な販売戦略を立てる連絡体制を推進します。

「人の交流」

森林とのふれあいや森林整備等に参加したい個人・各種団体等の皆さんへ、管内のフィールドと活動に係る情報を発信し、上下流域の取り組みをはじめとする活動範囲の広域化、各団体等間の連携、統一的な事業の展開等を図ることとしています。

①北信濃くらしと健康を支える森林づくり

古くから、人々と森林の間で育まれてきた「くらし」や「文化」に着目し、「北信濃くらしと健康を支える森林づくり（モデルプロジェクト）」を長野県北

信濃地域において展開します。

②木曾森林環境保全ふれあいセンターの取組

長野県西部地震被災地の災害復旧事業地において、NPO等と連携しヒノキ・サワラ・ミズナラ等の在来樹種による植生の再生を図ります。

また、中央アルプスの木曾駒ヶ岳森林生態系保護地域等において、NPO等と連携して植生の維持管理・復元を図るとともに、継続的な植生モニタリング調査を実施します。

更に、長野県木曾福島町の市街地に隣接する城山国有林において、城山の森林環境保全に取り組む「城山史跡の森倶楽部」を支援・連携して歩道の整備や自然観察会を実施します。

③ネットワーキング会議の開催

NPO等が行う自主的な森林整備等へのフィールドの提供や、国有林野で活動している団体との円滑な連携を促進するため、ボランティアネットワーク会議を開催します。

また、NPO、ボランティア団体等に関する情報を発信するため、局玄関に「森林ボランティア団体等支援コーナー」を設置し、活用を図って参ります。

④名古屋シティー・フォレスト事業

除伐、枝打ち等の森林整備や湿原・遊歩道の整備などの各種作業にボランティアで参加していただく、「名古屋シティー・フォレスト事業」を実施します。



**新緑深まる日比谷公園で**

**「森林の日」が開催される**

〔指導普及課〕四月二十九日と三十日の両日、第二十二回森林の日（林野庁・森林の市実行委員会主催）が、東京都立日比谷公園で開催されました。

今年から「緑の感謝祭」と統合して開催され、全国各地から七十九団体が出展する中、中部森林管理局も、小枝で人形を作るモックン、木の輪切りを使ったペダンントづくりや、「国民の森林」としての取り組みのパネル展示等を行うなど、中部局の国有林等をPRしました。

両日とも晴天に恵まれる中、会場には約六万人（主催者発表）の来場者が訪れ、中部局のブースでは多くの子供連れの家族が、モックンやペダンントづくりに熱心に取り組んでいました。

子供達は、リョウブやシデ、ヒノキ等の木の輪切りに好きなキャラクターの図柄を描きペダンントにしたり、慣れない手つきで小枝を削りモックン作りをしたり、楽しく木に触れていました。

この他、中部局管内では、長野県と岐阜県から九団体が出展され、木製品、山菜、緑化木、特産品等の展示即売や木工教室、木製品の製作などの実演・体験等

が行われていました。

また、高校生では、長野県から木曾山林高校が、生徒が作った木工品、キノコ、炭、苗木等を販売した他、パネル展示などを、また、上伊那農業高校は生徒活動、河川環境調査研究のパネル発表、学校の紹介、炭・花等の即売を行うなど、多くの人でにぎわいを見せていました。



何ができるかな

**じょうこうじ響きの森で新緑を楽しむ**

**（みどりの日フェスティバル05）**

〔名古屋事務所〕四月二十九日、名古屋事務所と愛知森林管理事務所主催の「みどりの日フェスティバル05（テーマ「じょうこうじ響きの森で新緑を楽しむ」）」を、瀬戸国有林の森林交流館で開催しました。

十時と十三時には、「高賀の森水」を各々先着百名様にプレゼントしました。会場には、「こども森のなんでも相談室コーナー」、「丸太伐りコーナー」、「木工クラフトコーナー」、「火おこしコーナー」、「バウムクーヘン作りコーナー」等のテントが張られ、真剣に挑戦する多くの親子連れで賑わいました。

アトラクションでは、犬山市オカリナ愛好会「ポップス」の皆さんによるオカリナ演奏会と職員による紙芝居「森からのおくりもの」が開かれました。新緑の香る木立の中、午前と午後の二回行われ、アンコールの声がかかるなど、演奏者と観客が一体となった楽しいアトラクションになりました。

今後とも、地域の皆さんに気軽に自然とふれあっていたただく場を提供していきたいと思えます。



お水もらったよ

**全国植樹祭に向け  
プレ植樹祭を開催**



〔岐阜署〕四月二十九日、下呂市において、「ありがとう 未来につなげ 森のめぐみ」をスローガンに、「プレ植樹祭」が、緑の少年団や林業関係者、一般市民等多くの人々が集まる中、開催されました。今回の植樹祭は、第五十七回国植樹祭岐阜県開催を一年後に控え、植樹祭の基本的な考え方「子供が主役」「森林セラピー」に基づき、みどりの少年団による合唱や、司会進行も中学生が行うなど、子供を主役とした開催となりました。



植樹風景

式典では緑化功労者等の表彰や、「森の名手、名人」認定書伝達式後、新たに結成された「みどりの少年団」に団旗授与が行われ、林野庁長官代理として山崎次長（名古屋事務所長）が来賓祝辞を述べられました。また、地元農林産物の即売会や苗木の無料配布では大勢の人々で

(5) 平成17年5月

にぎわいを見せていました。

式典会場とは別に、全国植樹祭に向け会場準備が進む「南飛騨健康増進センター」敷地内において森林散策会や、緑の子供会議、全国植樹祭会場見学会が実施されるとともに、「プレ植樹祭の森」造成のため、緑の少年団による記念植樹が行われ、慣れない手つきながらヤマモミジ、ヤマツツジ等を大きく生長するよう一本一本丁寧に植えていました。

### 高山岳城ライオンズクラブ源流の森 「子々孫々の森」整備事業

【飛騨署】緑の日の四月二十九日、宮国有林において高山市民と富山市民によるブナの木の植樹が行われました。

これは高山岳城（せつじょう）ライオンズクラブが取り組んでいる宮川の利水事業計画の一環として行うもので、平成十五年より当署が協力して体験学習の場の提供などにより宮川源流部の森を再生する事業であります。

今回は宮川下流域の市民との交流を図るため、富山神通ライオンズクラブも加わり、会員や家族を含め一〇七名の参加がありました。

当日は、雲行きも悪く時折小雨の降る中、昼食もそこに済ませ、当署職員が巨樹・巨木がある宮国有林の概要説明や森の恵みと働きについての森林教室を行いました。

その後ブナの植樹が行われ、大人に混

じって子供たちも慣れない手つきでスコップを持ち、一生懸命手伝う姿が見られました。

終了後、参加者から、「大きくなったブナの木をまた見に来たいね。」との言葉が聞かれました。

綺麗な空気を腹一杯すってもらい、幸いにも雨合羽を着ることもなく、苗木には丁度良い植樹日和でありました。



ブナの木を植樹

### 各地のたより

#### 来春が待ち遠しい しいたけの菌打ち体験

【名古屋事務所】四月十日、桜花爛漫の瀬戸国有林で、「第一回森林ふれあい講座」を開催しました。瀬戸市や尾張旭市などの家族ら三〇名が、しいたけの菌



一生懸命に丸太切り

打ちを体験しました。

同講座は、森林とのふれあいや交流を深めて、森林・林業を取り巻く環境について考えてもらおうと年八回計画しているうちの第一回目です。

この日は、森林整備によって伐倒されたコナラの木をプランターでも栽培出来るようにノコギリで長さ四五センチメートルに玉切り、電気ドリルで穴を開け、しいたけ菌を培養した「種駒」と呼ばれる菌を金槌で一つひとつ埋め込んでいきました。

作業のあとには、管理方法や発生時期など、たくさん質問を受けましたが、怪我もなく無事終了することが出来ました。参加者からは「初めての体験で楽しい時を過ごせた。」「しいたけの出現が楽しみだ。」などの声が聞かれました。

### 名古屋CF事業がスタート

【名古屋事務所】四月二十三日、今年度初めての名古屋シティ・フォレスト事業を瀬戸国有林の樹木見本林において実施しました。当日は桜の花も大半が散り、木々の新緑が美しい時期となり、作業に適した陽気となりました。

作業は隊員二九名が参加し、笹等の刈払いと散策路の整備を行いました。刈払いは数年間手つかずの場所であったため、笹は太く硬くなっており、灌木等が生い茂る中、鋸と鎌を併用し四苦八苦しながらも懸命に作業を行いました。散策路の整備では、雨が降ると歩道上を雨水が流れるため、流路の作設を中心に行いました。根を切り、石を取り除いたりの作業でしたが、隊員の多くは作業に慣れておりスムーズに進めることが出来ました。

全体的に少しキツイ作業となりましたが、気持ちの良い汗を流し、充実した一日となりました。



下刈り作業

なつかしい思い出を語る  
「森林鉄道フェスティバル」を開催

「木曾署」木曾森林鉄道王滝線が廃線となつて三十年が経過し、多大な功績を残した貴重な歴史遺産を後世に伝えていくことを目的に、王滝村・上松町との共催による森林鉄道フェスティバルを去る五月三・四日の両日にわたり開催しました。

初日の三日には、王滝村公民館において旧長野営林局製作による記録映画の上映会と開会式が行われ、共催である中部森林管理局計画部長によるあいさつに続き、「林鉄との一日そして一年」と題して公開談話会が行われました。森林鉄道の全盛期に運転・保線などの現場第一線で活躍された元王滝営林署職員の皆さんが当時を振り返り、苦勞されたことや職場の仲間との思い出などを語っていただきました。

また、会場では写真パネルや四十五分の一に縮小した上松停車場や助六谷を忠実に再現した林鉄模型の展示コーナーもあり、鉄道マニアの興味を引く中で、会場には多くのOBの方々も訪れ、昔話に花を咲かせるなど旧交を温めています。

このほか、王滝線の主要地点であった旧田島停車場では、ディーゼル機関車の体験乗車や軌道跡を探访するツアーも併せて行われ、ゴールデンウィークの最中

ということもあって、家族連れや全国からの森林鉄道ファンで一層の賑わいを見せた二日間となりました。



鉄道模型の展示コーナー

長年の取り組みを未来につなぐ

（遊々の森「多摩市民の森」の協定を締結）

「南信署」五月十四日、西岳国有林において、東京都多摩市と南信署との間で、遊々の森「多摩市民の森」の協定が締結されました。

今回の協定は、遊々の森を多摩市の子供たちや一般の方々を対象とした森林環境教育等で継続的に活用していただくものです。

多摩市と森林管理局との交流は、今から二十三年前に遡り、昭和五十七年当時、富士見町に設置された多摩市少年自然の家を訪れる子供たちを対象に、旧諏訪営林署の森林官（現南信署流域管理調整官）が、森林教室や体験林業の実施を呼びかけ、自然の家と連携して実施したことがきっかけで交流が始まりました。

当日は、多摩市の渡辺幸子市長をはじめ、地元富士見町長等の来賓の方々、また、多摩市からの公募による参加者、少年自然の家職員、森林管理局・署の職員ら約五〇名が参加しました。

式典では、渡辺市長と関局長の挨拶の後、同市長と久保田南信署長が協定書に調印し、記念樹の植栽等が行われたほか、参加者全員にカラマツの間伐作業を体験していただきました。

今後は、この遊々の森での様々な体験活動を通じ、この森がこれまで以上に愛される素晴らしい森になっていくよう、森林管理局としても協力していくこととされています。



一生懸命切ってるよ

平成十七年度第一回の  
森林管理局長等会議を開催

五月十七日・十八日、森林管理局において署長等会議が開催され、局長等会議関連の指示、本年度の業務運営等について打ち合わせが行われました。

また、十七日の全体会議には、林野庁から津本職員・厚生課長が出席し、公益的機能重視の管理経営の具体化、財政基盤確立のための自己収入の確保等について訓示及び活発な意見交換をしていただきました。

◆局長訓示

- ① 全体会議では、関局長から
  - ① 十六年度事業実行に対する感謝
  - ② 十七年度事業の確実な実行
  - ③ 情報の確認・共有
  - ④ 労働災害の防止
- 等について



標柱の除幕

◆次長訓示

局長等会議における幹部からの指示事項を踏まえ、収入の確保対策等についての説示がありました。

◆総務部長説示

①労働安全の確保等(労働安全の確保と交通事故の防止、メンタルヘルス対策)、②綱紀の肅正(倫理規程・道路交通法の遵守)、③労働時間短縮のための取り組み、④研修・広報、⑤給与の全額口座振込等について

◆計画部長説示

①計画樹立、②境界の保全管理と測定技術の定着、③国民参加の森づくりの推進、④NPO等と連携した自然再生、環境教育の推進、⑤貴重な森林や動植物の保護対策、⑥技術開発の推進と普及、⑦林野・土地売り払い関係、⑧分収林関係等、⑨レクリエーションの森、⑩国有財産の管理関係等について

◆森林整備部長説示

①平成十六年度事業、②平成十七年度林産物等収入額の確保、③事業の早期発注、④伐採系森林整備事業の拡大、⑤保安林制度の適切な運用、⑥治山計画の策定、⑦木材利用の推進、⑧林道の安全通行、⑨請負事業体の安全確保、⑩災害発生時の速やかな対応、⑪景観形成事業等について

の説示がありました。  
引き続き各課長等から連絡、検討事項

の説明後、津本職員・厚生課長を交えた意見交換等が行われ会議を終了しました。



署長等会議の様子 (大会議室)

善光寺三門屋根用資材の

調達要請

「販売課」善光寺三門は、今から二五五年前の寛延三年(一七五〇年)に竣工し、弘化四年(一八四七年)の善光寺地震にも耐えたのですが、昭和四〇年代に発生した松代群発地震の被害により、応急的な補強が施されました。近年、屋根や軸部の損傷・老朽化が顕著となり改修に至ったものです。

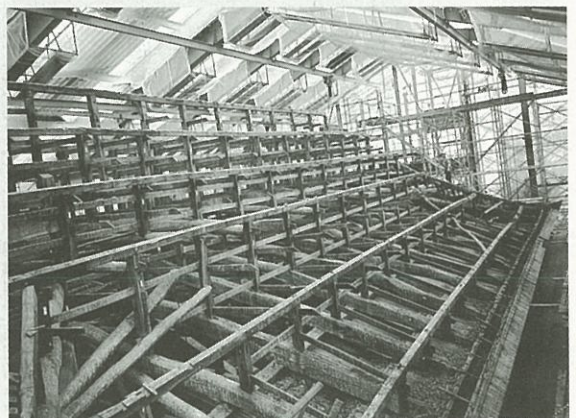
三門の解体前の屋根は、ヒノキの樹皮を重ねる「檜皮(ひわだ)葺き」でしたが、今回の工事中に建立当時に使用されていたサワラ板が大量に見えられたこと

から、改修方法が再検討され、寛延三年(一七五〇年)の建立当時と同じサワラ板を重ねる「榎(とち)葺き」に復元することとされました。

建立当初の材料であるサワラ板は、木曾谷産との見方が有力(設計管理事務所)であり、天然サワラは木目が細かく耐久性に優れている等「檜皮葺き」に比べて一〇年程度長持ち(四〇年程度の耐久性)すること、また、縦四五センチ、幅九センチ、厚さ二ミリの板約一八万枚とまとまりのある数量が必要であるところから、去る五月十二日、同寺の若麻績(わかおみ)春実事務総長らが中部森林管理局を訪れ、国有林から材料の調達ができるよう協力を求める要望書を局長に提出されました。



局長に要望書を提出



解体中の三門

天然サワラについては、木曾ヒノキと同様に貴重な資源ですが、信濃の古刹(古く由緒ある寺)である善光寺三門の改修に使用されることから、地元の理解を求めながら協力していくこととしていきます。

予定では、今年度秋から来年度にかけて、木曾谷の国有林から生産される天然サワラを、素材で一七〇〜一八〇立方メートル販売する予定です。

若麻績事務総長は、「国有林の天然サワラを使うことが重要」との考えから今回の協力要請が行われたものであり、全国的にも著名な善光寺三門の改修に国有林材が使用されることは、木曾谷の国有林の天然サワラのPRにもなり、今後全国の貴重な神社・仏閣等の修理に使用されることが期待されます。

### 長野マラソンに六名が出演

「東信署」四月十七日、長野市において第七回長野マラソン大会が開催され、中部森林管理局からは六名が参加しました。沿道の多くの人達の声援を背に受けて各人が日頃の練習の成果を発揮し、見事に全員が完走しました。

参加者の中では、南信署の宮路聡さんが二時間四十三分の好記録で五千四百人近い参加者の中で六十二位に入りました。他の五名の参加者も個人が当初の目標としたタイムを全員が達成しました。

六名の参加者は次の方達です。

- 藤澤 章人 (中部森林管理局)
- 原 浩美 (中信署)
- 宮路 聡 (南信署)
- 中村 信平 (南信署)
- 田中 拓馬 (木曾署)
- 岩崎 剛 (東信署)



力走した選手のみなさん

ふう けい き こう  
**風景紀行**  
夢ふくらむ  
ちよ が たけ  
**「蝶ヶ岳」**  
中信森林管理署  
(各署の景勝地等を紹介)

### 夢ふくらむ「蝶ヶ岳」

「中信署」山登りの経験がある人に「憧れる山は？」とたずねて多く返ってくるのが、槍ヶ岳と穂高連峰の答えだ。

写真中央の大きなU字型が大キレットで、稜線を右へたどると槍ヶ岳。左へたどると穂高連峰、その裾は上高地へと続く。こんな贅沢な景色を見渡せるのが、山登り入門の山・蝶ヶ岳だ。なだらかな場所から北アルプス心臓部のゴツゴツとした岩肌を間近に望める。視線をめぐらすと南アルプス、八ヶ岳が、遠くには富士山が見えることも。初めての人は「いつかはあそこに、その前にこちらの山から」と、これからの山プランが膨らむ。また、一通りの峰々をわたってきた人にして悪くない。ゆったりと自分がかつて立った場所を振り返ることができる。写真の景色に背を向けると眼下に安曇野の町並がある。稜線を境に荒々しい自然風景と、自動車が行き交う都会風景が



蝶ヶ岳から望む槍・穂高連峰 (写真提供：元島清人)

対照的に広がる。「ゴミゴミしたところより自然がいいや」と思った傍から、雲が流れ来てその間からキラリと輝く街が目に入り「こっちは案外いいもんだな」と感じたり。どちらの風景も間近に見えるのに距離を一步置いてみるから、いろんなものが見えてくる場所だ。

### ◇アクセス方法

JR大糸線豊科駅から車で約三十分、一ノ沢登山道から常念岳経由で蝶ヶ岳へ。他にも上高地から登るコースなど様々。

### 行事・イベント等の予定

- ◎豊かな森と水を活かす地域づくりシンポジウム  
6月3～4日  
下呂市萩原町・馬瀬西村
- ◎「戸隠竹細工の森」の協定締結  
6月7日  
北信署管内
- ◎第一回森林倶楽部「御柱の森を訪ねて」  
6月7日  
南信署管内
- ◎森林ふれあい講座  
6月11日  
愛知所管内
- ◎名古屋シティ・フォレスター事業  
6月10・15・21日  
岐阜・富山・木曾署管内
- ◎平成十七年度永年勤続職員表彰式  
6月23日  
メルパルク長野 (長野市)
- ◎国有林野観光施設協議会総会  
6月28日  
ウエルシテイ長野 (長野市)
- ◎森林計画現地研修会  
6月予定
- ◎高山植物等保護管理協議会  
6月予定

### 訂正

第13号の2ページ2段、左から4行目「13・4秋田県林務部長」を「13・4秋田県林務部次長」に訂正してお詫びいたします。